

退職者連合第 21 回定期総会を開催

生き生きと安心して暮らせる社会へ、着実に行動する退職者連合の歩みを

日本退職者連合は 7 月 14 日、お茶の水にある連合会館で第 21 回定期総会を開いた。この 1 年を社会的共感が得られる運動の分野で確かな手ごたえを実感、行動する退職者連合としての歩みを着実に前進させることができた」と総括。政治の流れを変え、生き生きと安心して暮らせる社会を目指すとする新年度運動方針を決定した。また阿部保吉会長が退任し人見一夫新会長を選出した。

総会は「衆議院総選挙を勝ち抜き、政治の流れを変えて、生き生きと安心して暮らせる社会にしよう！」を大会スローガンに、9 時 30 分に開会した。退職者連合の阿部保吉会長は、挨拶で九州の集中豪雨にふれ「山崩れや川の氾濫は森林の手入れが十分でないことが原因。森林保護は政治の結果だ」と政府の政策の不備を指摘、今なお過酷な状況に置かれている東日本大震災や原発、熊本地震の被災者と共に支援をしていくことを明言した。その上で安倍政権の暴挙には「私たちの平和を脅かす共通の課題に取り組んでいく」姿勢を示した。

来賓の連合神津里季御生会長は、中小と非正規の賃上げが大手を上回った春闘結果に「連合が流れをつくり、持続させなければならない」と力説。また働き方改革をめぐり官邸で安倍首相と会談した報道内容にふれ、発言の真意と考えを慎重に語った。その後、民進党・蓮舫党首、社民党・又市幹事長、中央労福協、労金協会、全労済から挨拶がされた。

運動方針討議は、「年金学習会は多くの参加者で埋まり関心の高さを示したが、学習会だけでなく次は具体的な行動を」、介護離職対策の介護休暇制度見直しなど「介護問題は現役・連合としっかりと連携した活動が必要だ」、沖縄普天間基地返還や平和運動の強化を要請するなど退職者連合に積極的な行動を求める発言が続き、本部答弁の後、運動方針は承認された。また役員改選では阿部会長が退任、人見一夫（自治退）選出した。JAM 大山会長は幹事に再選された。